

まなげあり、

〔古事記垂仁爾〕遣山邊之大鷦此者人名令取其鳥、故是人追尋其鷦百木國到針間國。

〔古事記傳二十二〕針間略○申國名義は此國風土記に、萩原里、土中有井、所以名萩原、息長帶日賣命、

韓國還上之時、御船宿於此村、一夜之間、生萩根、高一丈許、仍名萩原、即闢御井、故云針間井とあり、是に國名の始とは謂ざれども、云針間井とあるは、何とかや國名も是より出たりげに聞ゆ、若然らば榛木に由れる名なり、又谷川氏云、中略針によれる名なるべしと云り、是。

〔豐鑑長濱真砂〕天正五年十月、播磨の國を信長より秀吉に預給へば、彼國へ行向ぬ、東幡はみな隨ひつきし中にも、小寺官兵衛はもとより心ざしふか、りけり、西幡佐用上月の輩などはあふがざりければ、彼輩に軍を向略○下

〔日本書紀仁德〕十六年七月戊寅朔天皇以宮人桑田玖賀媛示近習舍人等曰、朕欲愛是婦女、若皇后之妬不能合、以經多年、何徒棄其盛年乎、平略○申於是播磨國造祖速待獨進之歌曰、瀬箇カシボ始報、破利摩波ハリマハ挪摩智チヤ、以播區娜ヌカ輸伽シヨウガ之古俱等望、阿例アレ挪始儻破務。

〔釋日本紀和歌〕瀬箇如報三日潮也、私記曰、師說三日之潮其沈急速、故欲讀早待之發語、置此言乎、沈

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

播磨姫路二階町、極高三十四度五十分半、經度西一度一分半、從東都東海道一百六十六里二十
九町二十間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

播磨 高砂 三四度四五分〇〇秒

姫路 三四度五〇分三〇秒

室津 三四度四六分三〇秒

赤穗 三四度四五分三〇秒略○申

東西里差